

授業科目	租税法演習
演習題目	租税法の諸問題
担当教員	山田 麻未
授業の目的	<p>皆さんはこれまで民法や会社法などの法律を学ぶ際、税金の存在を意識する機会は少なかったのではないのでしょうか。しかし、「現在において、ある経済取引から生じる租税負担を予想することなく取引を行うことは不可能か、または、きわめて危険なこと」（佐藤英明『プレップ租税法（第4版）』8頁（弘文堂、2021年））とされています。租税法を学ぶことは、役に立つだけでなく、これまで学んできた法律を別の角度から見直すきっかけにもなります。やってみて損はありません。</p> <p>この演習では、租税法に関する教科書もしくは基本的な文献を輪読して報告したり、判例報告を行うことで、租税法の基本的な考え方を習得し、具体的な事案に則して法律の解釈・適用ができるようになることを目指します。</p>
履修条件	<p>租税法を履修済みである必要はありませんが、民法の基本的知識を有していると良いと思います。</p> <p>卒業後の進路として、税を専門とする仕事（税理士、公認会計士、租税を専門とする弁護士）や、公務員（国税専門官を含む財務省職員）に興味がある人はもちろん、そうでない人も、税に興味がある人は気軽に参加してください。</p>
教科書・参考書	<p>下記のような教材を使います。詳細は初回ゼミでお伝えします。 増井良啓『租税法入門（第3版）』（有斐閣、2023年） 租税判例百選（第7版）（有斐閣、2021年） 佐藤英明『スタンダード所得税法（第4版）』（弘文堂、2024年）</p> <p>事前に租税法がどういうものか知りたい方には、下記の書籍に目を通しておくことをおすすめします。 佐藤英明『プレップ租税法（第4版）』（弘文堂、2021年） 小塚真啓『高校生のための税金入門』（三省堂、2020年） 三木義一編著『よくわかる税法入門（第19版）』（有斐閣、2025年）</p>
授業の計画・内容	<p>前期は、合同ゼミ（※）に向けて、グループごとに判例研究とその準備を行う予定です。具体的には、第1審から丁寧に判決を読んで両当事者の主張を正確に把握する、当事者の対立のポイントを整理する、判例評釈を集めて読む、判決の論理を理解するなどです。</p> <p>後期は、増井良啓『租税法入門（第3版）』（有斐閣、2023年）を使って、個人もしくはグループ単位で報告と質疑応答をしてもらう予定です。レジュメには「検討課題」を記載し、ゼミで議論するテーマも考えてもらいます。</p>

	<p>※西南学院大学の租税法ゼミと合同ゼミを実施する予定です(前期の土曜日午後)に開催予定)。なお、2025年度は、3つの判例(①司法修習生に給付される基本給付金は非課税か、②親子間で使用貸借された土地の転貸により生じる賃料は親の所得か、子の所得か、③フェラーリは「使用又は期間の経過により減価する資産」にあたるか)について、納税者側と課税庁側に分かれて、大学対抗のディスカッションをしました。</p> <p>報告者には、1週間前に仮レジュメを、2日前に本レジュメを送付してもらう予定です。</p> <p>租税法を履修していない参加者もいると思うので、最初から完璧な報告を要求することはありません。租税法の基本事項については、必要に応じて、教員から簡単に説明をします。</p>
<p>成績評価の方法</p>	<p>ゼミへの貢献度、具体的には、毎回の出席を基本として、報告内容や発言内容などを総合的に評価します。</p> <p>やむを得ない理由で欠席するときは、必ず事前に連絡してください。</p>